

健康な心と体

- 安心感をもって環境に関わる
- 自己発揮
- 体を動かす気持ちよさ
- 自ら体を動かし多様な動きを楽しむ



自立心

- 自分の力でやろうとする気持ち
- 挑戦と失敗
- やり遂げた満足感
- 自信

豊かな感性と表現

- A児の身体の動きにより感じているであろう「逆さ感覚」「目眩感覚」等をまるごと受け取りA児と同様の身体表現に至る

思考力の芽生え

- A児の体勢から、足の指の使い方に気付く

- A児は、教師の手を引きロープのところまで引き、「見ててね」という表情でロープを鉄棒のように握り（逆手）、片足ずつロープに足を掛け写真のような姿勢を数秒間、維持した。
- 見ていた教師は手を叩きながら、「すごい」と称えた。
- B児がやってきて、A児と同じようにしようと隣で挑戦するが、うまくいかない。
- B児は横目でA児の様子を見た瞬間、ロープから下りて靴と靴下を脱ぎ、裸足になった。
- 裸足になったB児は、足の指でロープをしっかり引っ掛け、A児と同じような姿勢を維持する。
- 教師は、B児の「見る」「模倣する」の過程を含め、B児の喜びに共感し声を掛ける。

幼児に育っている力についての考察

- B児がA児のまねをして裸足になって足をロープに掛ける様子は、憧れの体勢をとっているA児と「ぼく」を比較し違いに着目し、まねをする行為が特徴的である。B児は、「見る」「模倣する」が憧れに近づく方法だということに意識的ではないかもしれないが気付いている。
- 他者が味わっている感覚を、他者を見ることで、身体を通して受け取る力。

教師の願い

- 周囲の幼児がしていることに興味をもってじっくり見たり、まねしたりして、安心して遊んでほしい。

ねらい

- 友達のしていることに興味をもつ。

内容

- 先生や近くにいる友達がしている遊びを見たり、まねたりして遊ぶ。
- 友達と一緒にいる時間を心地よく過ごす。

環境の構成

- 先生や近くにいる友達がしている遊びを見たりまねしたりするように、幼児の興味・関心に沿ったり、前日までの遊ぶ様子を考慮したりして、幼児が使っていた物を目に付きやすい場所や、すぐに使える場所に準備する。また材料・道具等は、幼児の要求に答えられるように数量を考慮し準備したり、出す場所やタイミングに配慮したりする。幼児の表情や動きによって、寄り添ったり、言葉を掛けたり、遊びに誘ったり、遊びに加わり一緒に楽しんだりする。
- 友達と一緒にいることが心地よく思えるように、幼児同士の自然な関わりを大切にしながら、教師も一緒に遊びや話に加わったり、意識して幼児の名前を数多く呼ぶようにしたりする。また、もめごとの際は、双方の気持ちを十分にくみ取り、思いを受け止め、代弁するなどして、他者の思いへの気付きのきっかけにもしていく。その後、双方の幼児が楽しく遊べる雰囲気を作るようにする。